

国語科学習指導案

単元名「語り手に着目して読み、解釈や考えたことを伝え合おう」

教材名「少年の日の思い出」

令和5年10月 第1学年 指導者 荒木 崇史

I 単元の構想

1 単元観

本教材は、主人公が大人になった「現在」の場面と過去の「少年の日」の場面で構成される。本単元では、少年時代の経験が現在に大きく関わっていることを、作品の構成や展開、そして語り手に着目して読み取り、その効果について考えることがねらいとなる。

また、登場人物や情景の描写に着目して読みを深めること、文章に表されている言葉一つ一つに着目しながら、イメージを広げて読み、そのイメージを他者と意見交流することで思考を深めることもねらいとしている。そして、他者との交流の中で、自己の読みとの違いや新しい発見をすることで文学的な文章のもつおもしろさや魅力に気付かせたい。

本教材の一つ目の特徴は、「僕」（客・友人）が大人になった「現在」と「僕」がチョウ集めに熱中していた「少年の日」の2部で構成されており、「客・友人」が昔を回想することで「少年の日」に場面が変わっていくことである。小説の構成については捉えやすい作品である。

二つ目は、作品の主人公であり、過去の場面の語り手である「僕」は、本作品を学習している生徒たちと同世代であるということである。「僕」が少年時代に夢中になったチョウ集めのように、現代の生徒たちも夢中になるものがあり、主人公「僕」に感情移入して読むことができる。「僕」とエーミールという二人の人物像を捉え、性格や生活の違い、チョウに対する考え方の違いが読み取れる。最後には主人公があれだけ夢中になったチョウを「指でこなごなに押し潰す」という行為が描かれており、どのような気持ちでチョウを潰しているのかなど心情の読解は行える反面、一つ一つの言葉に着目してチョウを潰した理由や意味について考えたり、また、それぞれの場面で語り手が変わっていることやその効果や意味にまで考えを巡らせたりできる生徒は少ない。

以上を踏まえながら、語り手に着目して読み、それぞれが考えたことや解釈したことを伝え合う活動を設定した。「僕」の心情に迫っていくとともにエーミールという少年がどのような人物なのか、その人物像に迫っていく。最後の場面をエーミールの視点で書き換えることでエーミールの人物像をどのように捉えたか、視点や語り手が変わると印象や解釈が変わるその効果に気付かせていく。作品を読み終えたところで、現在の場面に焦点を当て、「僕」が今までに過去の思い出を語ろうとしなかった、閉ざしていたことを踏まえて、今なお自分本位な見方で思い出を語っている「僕」に気付かせることで大人になりきれていない主人公にも触れさせていく。少年時代にエーミールには理解してもらえなかった「僕」の気持ちが時を経て、「私」という人物に初めて語られる。「客」の思いを踏まえながら、「私」は一体何を「客」に語るのか考え、伝え合わせる。また、語り手に着目することで、作品を異なった視点から捉えるおもしろさも味わわせたいと考える。

2 研究との関わり

本研究は文学的な文章において、叙述を基に場面の情景や人物関係を結び付けながら、登場人物の心情や人物像を読み、作品を深く解釈しようとする生徒の育成を目指すものである。登場人物の心情を叙述に示された行動描写や情景描写、また前後の文脈や構成、人物同士の関係から捉え、自身の想像したことを折り込みながらより具体的に頭の中に読み描いていくことこそが、解釈を深めることだと考える。実際に生徒たちの文章の解釈が深まらないのは、叙述・描写と文脈やその場面の情景、人物関係を結び付けて読み取ることを既習事項としては学習しているが、意識して読解に活用できていないからだと考える。視点を変えて書き換えるリライトを通して、生徒たちがそれらを意識しながら作品を読み、自身の考えをもつこと、他者との交流を通して自分とは異なる考えに対して疑問をもったり、似た考えに触れ、自分の考えをより確固たるものにしたりすることができる。また、リライトにより、語り手の視点が与える表現の効果に気付くことができ、登場人物の印象や具体的な人物像、作品に対する新たな解釈が見えてくるであろう。そして、その考えや理解を踏まえて作品を再解釈し比較・検討する場

を設定することで自身の解釈を深めていく。以上のことから文学的な文章において、叙述を基に考えを比較しながら解釈を深めることができる生徒の育成を目指していく。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の読解においては叙述から言葉を見付けることはできるが、根拠となる文、文脈や前後の関係等つなげながら解釈を深めることが課題である。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。C(1)イ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。C(1)エ 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の辞書的意味、叙述の表面的な意味の理解にとどまり、文脈上の意味や作者の意図まで考える生徒が少ない。 文章を読む際に構成や展開の工夫について意識して読むことができる生徒は少ない。また、効果を考える際に根拠を明確に示すことに課題がある。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の考えをもつことはできても相手に伝え、他者の考えを生かしながら、深めていこうとすることには課題がある。

4 評価規準

知識・技能	① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
思考・判断・表現	① 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ② 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 進んで描写に注意して文章を読み、根拠を明確にして文章の構成や展開、表現の効果について考え、今までの学習を生かして、登場人物の相互関係を捉えながら作品の解釈について他者に思いや考えを伝えようとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全8時間：本時第7時）

過程	時間	■ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評定に用いる評価
つかむ	1	■本文を通読し初発の感想・疑問をもつ。また、単元の課題をつかみ、学習の見通しをもつことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 登場人物の印象や疑問など初発の感想を書く。初発の感想を交流し単元の課題をつかむ。			①	<input type="checkbox"/> 本文を読んで感想をもつとともに、単元の課題をつかみ、学習の見通しをもっている。 <観察・ノート(態①)>
[単元の学習課題] 語り手に着目して読んで、「私」は「客」に何を語るのか続きを考え、伝え合おう。						

追究する	2	<p>■現在と過去の人物関係を整理することができるようにする。</p> <p>□人物相関図を作成する（★）。</p> <p>□現在の場面を読んで客の心情について情景描写を基に捉える。</p>	①	◆主人公を中心とした人物相関図を作成し、現在と回想場面における登場人物の設定や関係性を把握している。<タブレット（思①）>
	3	<p>■「僕」とエーミールのチョウに対する価値観の違いを捉えることができるようにする。</p> <p>□「僕」とエーミール、二人を表す描写を基に「僕」とエーミールのチョウに対する価値観の違いを捉える。</p>	①	◆「僕」とエーミール、両者のチョウへの考え方や価値観の違いを捉えている。 <ノート（思①）>
	4	<p>■「僕」がクジャクヤママユを盗み、潰した場面の心情の変化について描写を基に捉えることができるようにする。</p> <p>□盗みを犯す前と後で「僕」の心情がどう変わったのか読み、心情曲線に表す。</p>	①	◆「僕」がクジャクヤママユを盗み、潰してしまった場面の「僕」の心情を描写を基に心情曲線に表し、心情の変化を捉えている。 <ノート（思①）>
	5	<p>■叙述を基に、これまで読み取ったことを結び付けながら想像を広げて読み、「僕」がどのような気持ちでチョウを押し潰しているのかを読み取ることができるようにする。</p> <p>□過去の最終場面を読み、「僕」の心情と行動の意味を考える（★）。</p>	①	◆チョウを押し潰す「僕」の心情を読み取っている。 <タブレット（思①）>
本時	6	<p>■「僕」が自分の罪をエーミールに打ち明ける場面を改めて読み、エーミールの人物像を捉えるために、エーミールの視点でリライトをすることができるようにする。</p> <p>□視点を変えてリライトをしエーミールの「僕」への思い、エーミールから見た「僕」の様子を想像しながらリライトする（★）。</p>	①	◆ここまでの場面のつながりや二人の関係を踏まえながら、「僕」が罪を打ち明ける場面においてのエーミールの視点でリライト文を書いている。 <タブレット（知①）>
	7	<p>■エーミールの人物像を捉えるとともに、現在の「私」が「客」に何を語るのか考えることができるようにする。</p> <p>□リライトの交流を通して、エーミールの人物像を捉える。「私」は「客」に何を語るのかを考える（★）。</p>	②	◆「僕」の視点で読んだ解釈とリライト文とを比べ、語り手の視点が与える効果について述べている。また、「私」が「客」に何を語るかを考えている。 <タブレット（思②）>
	<p>[本時のめあて]</p> <p>エーミールの視点から描かれたリライト文を交流することを通して、エーミールの人物像を捉えるとともに、現在の「私」が「客」に何を語るのか考えよう。</p>			

ま と め る	8 ■「私」の台詞を交流し、現在の場面の役割について考えをもち、自分の言葉でまとめることができるようになる。 □現在の場面の役割について考えをまとめる(★)。	② ①	◆前時に考えた「私」の台詞を今までの学習から捉えた相互関係や構成、展開を踏まえて説明しようとしている。初発の感想と作品の解釈がどう変わったか、前時に考えた大人になった「僕」が過去をどう捉えているかを踏まえ意欲的に「私」の台詞を交流し、現在の場面の役割は何かを自分の言葉でまとめている。 <発言(態①) タブレット(思②)>
------------------	--	-----	--

II 第7時の学習

- 1 ねらい エーメールの視点から描かれたリライト作品を交流することを通して、語り手の視点が与える表現の効果について考えるとともに、現在の「私」が「客」に何を語るのか考えることができるようにする。
- 2 展 開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(導入2分) S: みんなはどんな物語に書き換えたのだろう。 エーメールは本当に悪者なのかな? <めあて> エーメールの視点から描かれたリライト文を交流して、エーメールの人物像を捉えるとともに、現在の「私」が「客」に何を語るのか考えよう。	○めあてを示し、本時の学習の見通しをもてるようにする。
2 「僕」がエーメールに罪を告白する場面のリライト文を交流し、エーメールの人物像を捉える(★)。(展開①14分) S: 冷静で冷淡なエーメールが悪いと思っていた自分の大切にしていたチョウを盗まれ、粉々にされたのだから怒るのは当然だ。「激したり」「どなりつけたりなどしない」のはすごい。 S: 冷淡にかまえ、依然僕をただ軽蔑的に見ていたのは、「僕」のチョウへの扱いにあきれているのと、彼が「僕」とは異なったチョウへの価値観をもった大人だからではないか。 S: エーメールと「僕」とはチョウに対する価値観が違う。「僕」はチョウを宝物としどんな物でも集めたい。エーメールは宝石として価値のある物を美しく収集したいのだ。	◎エーメールが「僕」にどのような思いをもち、接していたのか、読み取れるように、作成したリライト文を交流しながら、エーメールがどんな人物かを観点として話し合えるようにする。 ○考えが深まるように、互いに質問や疑問を投げかけながら発表を聞けるよう促す。 ○一つ一つの言葉に注目できるように、ワークシートの注目した言葉を説明できるよう促す。 ◎リライト文の交流後、再度、エーメールの人物像について共有できるよう、小グループで話し合えるようにする。
3 私たちがエーメールを悪者だと解釈した理由を考える。(展開②10分) S: 「僕」になりきって過去の場面を読んでいたので、つい「僕」の罪を許そうとしないエーミー	○自身の解釈の交流につなげられるようタブレットに自分の考えを記入するように促す。 ◎4人組でエーメールの人物像に対する解釈が変わる理由は何なのか話し合わせるようにす

<p>ルを悪者として読んでいたのではないかな。</p> <p>S : コムラサキの場面もエーメールは知識を基に「僕」のコムラサキを事細かに評価しただけであって、エーメールの視点で考えると厳しく批評したのは当たり前なのかもしれない。</p> <p>S : 誰の視点で物語を読むかによって、印象が変わるし、読み取りも変わってくるな。</p>	<p>る。</p> <p>○エーメールの人物像の変化したポイントに気付くことができるようリライトした物語を基に考えられるように促す。</p> <p>○解釈の変容に気付くことができるよう、場合によっては「コムラサキを見せた場面」を振り返り、以前の解釈とどう変わったのか投げかける。</p> <p>○考えを全体で共有できるよう、それぞれのグループの代表者が考えを発表できるようにする。</p>
<p>4 現在の「私」は「客」＝「僕」に何を語るのかを考える(★)。(展開③20分)</p> <p>S : 長い間君は過去のことを引きずっていたんだな。私に話をしてくれたことで少しでも君の辛さが軽くなるといいのだけれど。</p> <p>S : 君の話を知ると、やはり君は自分勝手な考えをしまっているのだな。当時のエーメールという少年の気持ちを考えたことはあるかい。厳しいことを言うけれど、君はまだ大人になりきれていないのだろうな。</p>	<p>○「私」の台詞が考えられるように現在の場面の最後の描写「残念ながら、自分でその思い出をけがしてしまった。実際話すのも恥ずかしいことだが」の台詞に焦点を当て、大人になった「僕(=客)」の今の心情を想起できるようにする。</p> <p>○「私」の台詞につなげられるよう「客」がどんな思いだったのかをペアで交流し、発表できるようにする。</p> <p>○タブレット上に、現在の場面のやり取りを受け、「私」が何を語るのかを台詞の形で書き込み、互いに共有できるようにする。共感や反論、異質な考えが生まれ、それらの考えを比較できるようにする。</p> <p>◎次時の交流につなげられるよう「私」になりきり「客」への台詞を考えるよう促す。</p> <p>○「客」に対して否定的な意見だけでなく肯定的な考えも称賛できるようにする。</p> <div data-bbox="826 1391 1423 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>「僕」の視点で読んだ解釈とリライト文とを比べながら、エーメールを悪者と解釈した理由を考え、語り手の視点が与える効果について言及できているか、また大人になった「僕(=客)」の現在の思いを踏まえて、「私」の「客」への台詞を書くことができているかを評価する。</p> <p style="text-align: right;"><タブレット(思②)></p> </div>
<p>5 次時への見通しをもち、本時の学習の振り返りを記入する。(終末4分)</p> <p>S : 視点を変えてリライトしたことで、視点や語り手の与える効果に気付くことができた。次</p>	<p>○解釈の違い、解釈の広がりが見られる要因について自分の考えをまとめられるよう、次時で台詞の交流をし、現在の場面の役割について考えることを示す。</p>

回はみんなで交流して現在の場面の役割を考えたい。

S : 語り手に注目することで、読み飛ばしていた現在の場面に着目できた。大人になった「僕」の気持ちや「私」がどんな言葉をかけたか考えることができた。

3 板書計画

タブレット上

受容・共感 ・今も過去の過ちを引きずっているのか。
・君の気持ちは分かる。・子供だったから仕方ない。
否定・注意
・エーミールのしたことはもつともだ。

現在の「私」は「客」⇨「僕」に何を語るだろう。

「僕」の視点で読んでいると「僕」になりきってしまう。
「僕」の視点で出来事が語られているから「僕」寄りの考えになってしまう。
「僕」から見たエーミールだから冷たくひどい奴だと思った。

どうしてエーミールを悪者だと解釈したの？

悪い奴ではなく、大人。
冷静な対応ができている。
「僕」とは違う価値観をもっている。

エーミールは本当はどんな人物なのだろう？

少年の日の思い出
エーミールの視点から描かれたライト文を交流して、エーミールの人物像を捉えるとともに、現在の「私」が「客」に何を語るのか考えよう。